

令和5年度 第3回 芳川北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年11月10日（金） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 芳川北小学校 多目的教室
- 3 出席委員 河島 茂男、榎谷 志保、金山 康乃、鈴木 章真、鈴木 俊徳、 建部 透、廣野 博子、  
見野 潤一郎、村松 真弓
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 古橋 一哲（南陽協働センター）
- 6 学 校 櫻井 敬子（校長）小野 芳敬（教頭）高橋 賢司（CS担当教職員）  
仲山 麻由（教務主任）宮本 多代子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 宮本 多代子
- 10 要件の確認 会員9名のうち8名の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立しています。（1名は30分後に出席）
- 11 会長挨拶・校長挨拶
- 12 議長の選出 榎谷委員が立候補し、全員異議なくこれを承認した。
- 12 会議記録 前回の会議記録確認後、熟議開始。
- 13 熟議

(1) 学校評価について

教務主任より学校評価（12月）についての説明、生徒指導よりいじめ対応についての説明がなされた後、熟議がなされた。

- ・ 昨年度も今年度7月のアンケートにおいても、キャリア教育についての%が低いのはなぜか。  
(河島委員)
- ・ 今学んでいることが大人になってからの生活とどう結びつくのかということが子供に意識として定着していないからだと思われる。（教務主任）
- ・ 学んだことが身につけて社会に出たときに発揮できるようになれば良い。（見野委員）
- ・ 将来のことは、子供にとっても見えにくく、保護者も目先のことにとらわれているので、このようなアンケート結果になったとわかった。（河島委員）
- ・ 将来についての親の助言が大切だと思う。（榎谷委員）
- ・ いじめのことだけでなく、家庭において会話がどれくらいあるか調べることも必要ではないか。また、いじめについては、家庭と学校とのつながりが大事。（俊徳委員）

アンケート結果については今後も学校として考えていきたいということで、12月実施のアンケート項目について、了承された。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果報告を踏まえ、本に親しむ子にするためにどうしたらよいかという内容で、熟議がなされた。

- ・ 先日ボランティアを募って「お話し会広場」をやった。初日は171人、二日目は248人の子供が参加してくれた。（金山委員）

- ・ 朝の読み聞かせが無い時にはどのようなことをしているのか知りたい。(金山委員)
- ・ 学年によって違いがあるが、ドリルなどを行っている。(教務主任)
- ・ 大人が読書をする姿勢を見せることによって、子供も読むようになるのではないか。  
(金山委員)
- ・ 先生も読んで、子供に共感してくれると良い。(俊徳委員)
- ・ 自分が読んで面白かった本を紹介すると、読む子供がいると思う。高学年になると読書から将来の夢を考えることもある。(廣野委員)
- ・ 教科書に掲載されている作品には人間にとっての根本的な問題を考えさせる物が多い。こういう作品が多く掲載されると良い。また、詩や短歌、俳句などを声に出して読ませるのも良いのではないか(建部委員)
- ・ 俳句や短歌を作ることも、日本語を大切にし、言葉を発することにつながると思う。  
(廣野委員)

(3) 来年度からのボランティア募集の方法について、金山委員から提案がなされた。

- ・ 保護者については、今年度中に登録をしてもらうことにしたい。(金山委員)
- ・ ボランティア活動についての年間計画が提示できると良い。(見野委員)
- ・ 多少は前後するかもしれないが、月くらいは決めてもらうと良い(河島委員)
- ・ ボランティア活動をすると子供からエネルギーをもらえるという言葉聞く。(見野委員)
- ・ 保護者のボランティア活動については、親子三代で住んでいる方とそうでない方とでは、参加について意識にかなり相違がある。(章真委員)
- ・ ボランティア活動を一緒になって行うことによって、地域の方が親しくなったり、子供のためにやるのが楽しいというようになってきたりすると良いと思う。(廣野委員)

以上のようなボランティア活動についての意見が出され、募集方法について承認された。

#### 14 その他報告事項等

司会から、次回会議は令和6年2月19日(月)14時~16時 多目的教室で開催する旨の報告があった。また、持久走大会と校内音楽会等への参加も勧められ、委員の方それぞれの自己評価についての依頼と次回の議長の承認もなされた。

最後にオブザーバーとして出席していただいた南陽協働センター長の古橋様からセンターとしてもボランティア活動に協力したいという言葉いただき、会を閉じた。